

アイスワールドどれでもやり放題

## 中央アルプス 小野川奇美世ノ滝 IC

中央アルプスの奇美世ノ滝は、旧版のアイスクライミング全国版ガイドブックに載っており、その妖しい名前からずっと行きたいと思っていたが、遠いこともありなかなか行く機会がなかった。今回行ってみて、車のドライブこそ遠いが、歩く距離自体は八ヶ岳と大差なく、新版のガイドブックの選からもれたこともあり、他パーティもなく2日間貸切りで楽しむことが出来た。



氷のコロッセオに相応しい

ベーステントを張り、ここから登山道を1時間弱で奇美世ノ滝へ到達する。前週にガイドが入ったトレースが残っており、歩きはそれほど大変ではない。行ってみて分かったが、最奥の堰堤までの林道が伸びており、登山道は再び林道と交わるので滝近くにベースを張った方が何かと楽だと思われる。次回行くことがあれば、そうしたい。

奇美世ノ滝はなかなかの迫力で、高さ60mで、本流右岸は氷瀑で覆われており幅は100m位ある。他パーティも居ないので登りたい放題。どこを登ろうかという感じである。初日は、せっかくなので本流を登ろうということになり、左岸側からアイゼンを履いて基部までアプローチ。小さな釜が出ているので、落ちないように注意して取付く。傾斜はたいしたことはないのだが、がさがさで氷結が悪く、プロテクションが取りづらい。雪を分けながらリード。最後の落ち口がやや立っていてIV+。60mロープいっぱい滝上に出るが、よいプロテクションが無く、岩と凍った倒木に

### 【日程】

2018年2月17日(土)  
～18日(日)

### 【メンバー】

小暮(L)、笹川、佐藤

【地形図】 木曾駒ヶ岳

【グレード】 IV～V+

【記】 小暮憲明

上松Bコースの登山口である木曾駒ヶ荘まで車で入るが、天気予報に反して朝から雪模様。除雪が入らない林道へ車で入ってしまい、スタックしないか不安であった。帰路にわかったが、上松Aコース側の林道へ入りそこからBコースへ向かう道路は遠回りだが、除雪されているので、こちらの方が安心だろう。

木曾駒ヶ荘からは、スノーシューを履いて1時間強のアプローチで林道終点だ。今回は、初めて行ったため、この林道終点に



本流は氷が悪い

長スリングを回してビレイ点とする。リードフォローで登る。滝上は風が吹き抜けており、なかなか寒かった。懸垂して基部に戻ると、なかなかいい時間なので、ベースに戻る。

2日目は、すっかり天候が回復。どこに登るか悩むが、本流右岸中央のなるべく氷が露出している部分を繋いで、左へトラバースして斜上して登る。いったん溶けて再氷結した氷のためか、リード中にアックスを打った瞬間に「ピシッ」と音がして氷の内部に亀裂が入る音がすることがあり、大崩壊することを恐れて、コツコツとやさしくアックスを打ち直す。なるべく立ったところに登ろうかとも思ったが、崩壊したら嫌なので、凹角の弱点から登る。ロープスケール45m位V級位。滝上の灌木でビレイ。リードフォローで3人登った。

時間があるので、次は更に左の一番傾斜が強そうなバーチカルを登る。こちらは、30m弱の高さなので、左の大きな太い木を支点にしてトップロープを張る。なかなか氷も硬く、V+位の難しい氷だ。登っていると谷に陽が差し込み、氷が白く光って眩しいくらいだ。すっかりアイスワールドを堪能した。



トップロープで楽しむ



2日目は右岸の真ん中にトライ



V+のラインを登る

近年のアイスクライミング人気で、人が多いことがしばしばであるが、2日間貸切でもありなかなか楽しいところであった。ところで帰路には天神温泉に寄ったのだが、建物はかなり古くて寒い外廊下を歩くようなところであったのだが、サービスで振る舞いの猪鍋がおいてあり、臭みもなく脂がとても甘くて美味しかった。これで500円なので、とってもお得です。

#### 【行程】

2/17 木曾駒荘(7:05)～林道終点BC(10:30/11:00)～奇美世ノ滝(11:40/16:30)～BC(17:00)

2/18 BC(7:05)～奇美世ノ滝(7:45/14:10)～BC(14:40/15:10)～木曾駒荘(16:10)